
僕の主人はメイドさん

蒼波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の主人はメイドさん

【Nコード】

N4436D

【作者名】

蒼波

【あらすじ】

ナギお嬢さまとの誤解が解けた。三千院家をクビになったハヤテは、マリアの言うことに従い、ナギの親戚である愛沢家へと向かう。そして、ひよんな事から咲夜とそのメイド・ハルの執事になった…。

プロローグ（前書き）

この小説は、ハヤテのごとく！のFFFです。

プロローグ

どうも、こんにちは。
綾崎ハヤテです。

僕が三千院家のお屋敷をクビになってから、早くも1ヶ月が経とうとしていきます。

あの日以来ナギお嬢さまは…いえ、三千院さんは、1度も学校に姿を見せてません。

マリアさんとは、ほぼ毎日のようにメールのやり取りをしています。もちろん互いに主に仕える忙しい身ですが、毎日交代でその日の出来事を報告し合っています。

現在、僕は新しい主の下で執事をさせていただいています。

一人は愛沢家長女の咲夜さん。

そしてもう一人は…

「ハヤテくん。お待ちせしました。学校に行きましょつか?」

あっ！噂をすればってやつですかね?もう一人の主が僕のことを呼んでいます。

「はい、今すぐ行きます!千桜お嬢さま」

第1話：崩れた信頼関係

1ヶ月前、

その日は2年生になって新しいクラスにも少しずつ馴染み始めた、そんな4月末日のことだった。

「なあハヤテー」

「何ですか？お嬢さま」

ソファーに寝そべって漫画を読んでいたお嬢さまに呼ばれて、掃除中だった僕は手を止めて振り返った。

4

「もうすぐGWだよな」

「そうですね」

そう、明日からGW。
今まで連休関係無しのバイト生活を送っていた僕にとって、初めてと言っていいGWである。

「そ、そのだな…一緒に、旅行にでも行かないか？／／／／」

お嬢さまが顔を真っ赤にし、もじもじしながら僕を見てくる。

(熱でもあるのかな?)

「旅行ですか? 良いですね。僕一度普通に外国行ってみたかったんですよ」

「普通にとはどついつことだ?」

ソファーから体を起こし、怪訝そうに僕を見る。

「一時期マグロ船でバイトしてたんですが、ロシア領とか韓国領に不法入国して密漁してたんですよ」

僕がそう言った途端、急に部屋の空気が重たくなった気がした。

「…そつ…そつか」

お嬢さまも申し訳なさそうな顔をして、俯いてしまっている。

(ま、マズイ! 何とか話題を変えなくては)

「それにしても、本当に楽しみですね! 旅行」

慌ててすぐに取り繕うと、

「そ、そうか？／＼／＼」

お嬢さまの表情がさっきまでの恥ずかしそうなものになった。

（ナイス！僕）

「はい。マリアさんと一緒に旅行出来るなんて」

僕は一安心しながら続けると、

ピキッ

と、たしかに何かにヒビが入る音が聞こえた気がした。

（アレ？？また地雷踏んだ？）

嫌な予感がして恐る恐る顔をあげると、鬼のような形相をしたお嬢さまがわなわなと肩を震わせて立っていた。

「ハーヤーテエー」

（やっぱり…）

「あ〜れ〜ほ〜ど〜マリアには手を出すなと言っただろうがああ！
こんのお…バカ〜！バカ！バカ！バカア〜！
そっそれにだな…お前と私は、その…恋人同士だろ？ふ、ふふたり
つきりで行くに決まってるではないかっ／／／／」

お嬢さまは最後には顔を毒みたいに真っ赤にしながらそう言ったが、
僕はあるキーワードに引っ掛かっていた。

（待てよ？いつ僕とお嬢さまが恋人同士になったんだ？）

「待ってください。今、何とおっしゃいましたか？」

「だから、旅行はふたりつきりで行くに決まっている、と／／／／」

恥ずかしいから何度も言わせるな、と顔を背けながら言う。

「その前に何と？」

「ハヤテ、お前と私は恋人同士だろ？」

（やっぱりだ）

「何を言ってるんですか？いつ僕とお嬢さまが恋人同士になったん

ですか？」

「嘘だ！だってハヤテはあのクリスマスの夜に『君が欲しい』、と確かにそう言ったではないか」

「確かあの時僕はそう言いましたが、あれは…その…身代金目的でお嬢さまを誘拐しようとして言ったんです」

「嘘だ、嘘だ、嘘なのだ〜！」

翠色の大きな瞳いっぱい涙を溜めながら、お嬢さまは頑なに首を左右に振った。
そしてマリアさん呼んだ。

「どうしたんですか？」

困った顔をしたマリアさんが、今にも泣きそうなお嬢さまにそう尋ねた。

「ハヤテはあの夜、私を誘拐しようとしたのは本当なのか？」
その言葉を聞いた途端、マリアさんの表情は険しいものとなり、一息を吐いてからお嬢さまを見据えて口を開いた。

「ナギ……… 本当です」

「………っ！………！」

マリアさんの一言を受けて、お嬢さまは俯いて肩を震わせた。

「ハヤテ………」

「……はい」

今までの経験上、僕にはこのあとお嬢さまが言うことが分かる。

「お前はクビだ……出ていけ………」

「（やっぱり）お嬢さま………」

「お前のようならくでなしの顔など見たくない……。もう二度と、私の前に姿を表すな」

そう言い残すと、お嬢さまは走って部屋を出て行った。

お嬢さまが部屋を出てからしばらく沈黙が続き、

「ハヤテ君…私のせいです」

口を開いたマリアさんは、本当に申し訳なさそうに俯いていた。

「マリアさん…そんなことはありませんよ。今まで…本当にありがとうございました」

僕はそんな彼女に微笑みかけて、深く頭を下げてから荷造りをするために部屋に戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4436d/>

僕の主人はメイドさん

2010年10月13日16時47分発行